

令和5年度

徳島市津田小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本の定着を図るための個に応じた学習活動の工夫
- コミュニケーション能力を育てる授業の充実

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 委員
- 秋田 泰宏 鈴木 陽子(教頭) 平山 雄造(教頭) 高下 裕史(教務主任) 学年主任  
木下 真紀(研修主任) 吉田 あすか(国語主任) 森野 千恵(算数主任)

校長

永井 武



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや整数の四則計算等については、ある程度の定着がみられ、学習に粘り強く取り組む児童が増加している。 ○自分の興味のある本を選び、読書に取り組む児童が増えている。 ●学力に二極化傾向がみられる。語彙力にも課題がみられる。上学年に進むと、読み取ったり、聞き取ったりすることを苦手とする児童が増え、学習に対して根気強く取り組むことが困難になる児童が増加する傾向にある。	・当該学年の漢字の読み書きや、整数の四則計算等、基礎・基本の内容について、70%以上を正答できる。 ・語彙力を活用し、読み取ったり、聞き取ったりする活動に根気強く取り組むことができる。 ・学校や家庭において、ドリルやタブレット端末等を使用し、自分の力に合った課題に取り組むことができる。	・「前学年漢字・計算チェックテスト」の結果をもとに、個別最適化された指導を行う。 ・家庭学習において、個に応じた学習内容を設定できるように支援する。 ・朝の活動の時間等を用いて、ドリルやタブレット端末等を活用し、漢字の読み書きや、整数の四則計算等の基礎・基本の内容を反復して取り組む。 ・家庭と連携しながら、ドリルやタブレット端末等を活用し、基礎学力を身に付けていく。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○発表の仕方の例を示すことにより、自分の思いを言葉で伝えたり、相手の立場に立って聴いたりする態度や技術が身に付いてきている。 ○課題解決のために、多面的に考えようとする児童が増えている。 ○高学年では、タブレット端末を活用してプレゼンを作って発表するなど、表現力が向上している。 ●自分の考えの理由や根拠を明確にしながらかたり、相手の話を正確に聞き取ったりすることに苦手な傾向がある。 ●他者の意見を聞き、自分の考えに反映させたり、反論を述べたりすることができる児童が少ない。	・自分の考えをもち、理由や根拠を明確にしながらかたり、伝えたりすることができる。 ・相手の話を正確に聞き取ることができる。その上で、多様な意見を尊重することができる。 ・他者の意見を自分の考えに反映させたり反論したりして、話し合うことができる。 ・高学年では、タブレット端末を使用して、プレゼンテーション力を向上することができる。	・各教科の授業で「AかBか」「○か×か」のような簡単な問いかけをし、自ら判断する場面を設ける。 ・自分の判断に対する理由や根拠をノートやタブレット端末等へ書き込み、発表する授業を展開する。 ・各教科の授業で、話し合いや簡単な討論等の活動を設定する。 ・朝の時間やすきま時間を利用して、継続的に国語の聞き取り問題に取り組む。 ・プレゼンテーション力を向上させるためのタブレット端末の活用の仕方を考え、実践していく。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題については、最後まで取り組むことができる児童や新しい課題に自ら進んで取り組もうとする児童が増えてきた。 ●自分で課題を見つけて解決方法を見つけるのは苦手な傾向がある。 ●学年が上がるにつれて、自尊心や自己有能感が低くなる傾向があり、学習意欲にも影響が見られる。 ●今までに学習したことを次の課題や生活に活かそうとする態度が育っていない児童がいる。	・自ら設定した課題に対して主体的に取り組むことができる。 ・めあてをもって学習に取り組む、自分なりの方法で課題解決できる力を身に付ける。 ・今までに学習したことを、次の学習や生活に活かすことができる。 ・自ら課題を設定し、タブレット端末等を有効に活用し、楽しく学び表現することができる。	・ポジティブ行動支援を意識し、児童のできることを認め、伸ばしていく。 ・めあてを明確にした授業、児童の興味・関心や問題解決の必要性を踏まえた授業を展開する。 ・主体的な学習を進めるために教材・教具の開発や、教師の指導法を工夫する。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れ、自信のない児童の意見も引き出しながら、どの子も主体的に取り組めるようにする。 ・授業のねらいを明確にし、目的や場面に応じて、タブレット端末を効果的に活用する。			

令和5年度 学力向上ロードマップ



